

私が「炉端の会」の四期生（土曜班）として仲間入りしたのは、平成16年の秋でした。そして20年4月に由解さん（金曜班）から会長のバトンを渡され、22年4月に吉沢さん（木曜班）に引き継ぐまでの2年間の一部を、思い出すままに書いてみました。

（研修旅行のおもいで）

毎年11月に行う研修旅行は、平成20年は信州佐久の「佐々木家」と北国街道の宿場「海野宿」でした。（参加者約100名、バス2台、日帰り）

先に寄った海野宿は道の真ん中に用水路が流れ、古い建物の街並みには火災の時、類焼を防ぐための「卯建」を立ち上げた家もあり、宿場町の雰囲気の色濃く残っていました。

佐々木家では、ご当主の佐々木嘉幸氏は、ご高齢ですが大変お元気で、現地の歴史や旧佐々木家住宅について詳しく説明していただきました。

千曲川の河畔には、佐々木家の功績を顕彰するための筆塚の石碑も残っており、ご先祖が代々住民の為の教育等を含め、地元で果たした役割の大きさを実感しました。

翌21年の研修旅行は、房総九十九里浜の「作田家」と南房総市の「旧尾形家と石堂寺」でした。（参加者104名、バス2台、日帰り）

作田家では、ご当主で現在は醸造業を営む作田倉治氏から、民家園へ移築前の旧作田家住宅の立地状態や当時の環境、建物を囲む濠跡の残された一部や池の跡等、現地ならではの話が聞けました。その後、九十九里の浜辺で、地元の歴史研究家で高校の先生が、昔の地引網漁や当時の漁業について詳しく解説してくれました。

南房総市にある石堂寺は、本堂・薬師堂・多宝塔など国指定重要文化財が数ある古刹で、その広い境内に近隣から移築された、旧尾形家住宅（築約280年、茅葺、分棟型で国指定重要文化財）が良い状態で保存されていました。

（かわさきボランティアフェアへ出展）

平成20年秋、市民センターからボランティアフェアの出展案内が届き「炉端の会」として初めて出展しました。

フェアは、川崎市のボランティア団体が活動内容を紹介し、広く知ってもらうのが目的であり、約50団体が参加しました。

われわれの展示内容は、民家園の四季と炉端でのボランティア活動を紹介する写真パネル、炉端のメンバー栗原さん製作の精巧な古民家模型、草バツタの製作実演と配布、牛乳パックの再生利用のコースター配布等でした。

後日主催者から来場者のアンケートの結果、展示内容・やりたいボランティアとともに、民家園の炉端の会が一位だったとの連絡が届きました。

このボランティアフェアへの参加は22年まで3回で終了しましたが、炉端の会が外に向かって行った、ささやかなPR活動であったと思っています。